

第 39 回 公益社団法人 日本看護科学学会総会 議事録

日 時 2020 年 11 月 30 日 (土) 17:10~18:05

場 所 石川県立音楽堂 コンサートホール

石川県金沢市昭和町20-1 TEL: 076-232-8111 (代)

出席者数 1,545名 (会場126名、委任状1,419名)

議 長 石垣 和子

I. 開会

現正会員数 9,729 名中、開会時会場出席正会員数 59 名、有効委任状提出者 1,419 名、合計 1,478 名であり、日本看護科学学会定款第 45 条に定められた要件を満たしていることが確認され、公益社団法人日本看護科学学会第 39 回学会総会が開会された。

司会は副理事長が、書記は佐居由美氏 (聖路加国際大学) が行った。出席の名誉会員、金川克子氏、近藤潤子氏の紹介があった。

II. 理事長挨拶

真田理事長より、以下の挨拶があった。

学術集会 1 日目は 3,700 名の参加者を迎え、4,000 名が目標の学術集会として大成功である。学術集会長の石垣和子先生の「時空を超えて」のテーマやプログラムがすばらしく、感謝したい。日本看護科学学会は、来年 40 周年を迎える。日本の看護系学会の中でも歴史のある学会であり、かつ、約 1 万人の会員を有したアカデミックな学会である。

現在、日本看護系学会協議会は 40 を超える学会が参画し、看護の学問領域が増えたことが示されている。その中で、本学会の目指す方向を再考する時期に来ている。後ほど、本学会のその具体的内容について説明したい。

III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第 44 条に従い、議長に第 39 回学術集会会長の石垣和子氏が指名された。また議事録署名人として、牛久保美津子氏 (群馬大学大学院)、奥裕美氏 (聖路加国際大学) の 2 名が推薦され、承認された。

IV. 報告事項

1. 理事長のビジョンと運営方針

真田理事長より、スクリーンに示された内容をもとに以下の説明があった。

本学会が今後、目指すべき道を再考するために、2 つの目標について説明する。

まず、看護ケアの標準化についてである。前期の鎌倉理事長のときに、ナーシングサイエンスとして、看護ケアを標準化しスタンダードな形として、ガイドラインを発行する計画があった。本計画は継続して行っていく。また、大型研究費を獲得するため、システム構築費を獲得する。本件については、本学術集会でも、日本看護系学会協議会からのプレゼンテーションとして企画されている。理事長の小松浩子氏の発表が予定されており、看護の大きな研究実施を目指すものである。

2点目は、若手研究者支援である。若手の論文投稿数増加を目指し、学会誌を修士課程、博士課程の論文の発表の場として若手研究者を支援していきたい。英文誌では、日本人の投稿が36パーセントとなったが、よりクオリティをあげたい。優秀な学会発表演題を論文として掲載することを目指し、学術集会における表彰制度の導入を予定している。また、新たなガイドライン作成組織のシステムティックレビューチームに若手を起用し活性化を図る。なお、若手研究者の実態（かかえる問題）については調査済みのため、メンターとなる指導者側の姿勢、研究者と指導者がどのようにお互いリスペクトしあっているのかについて実態調査を行う予定である。海外の学会での発表、海外研修への支援も予定しており、来年の6月の社員総会で具体的に提案したい。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

2. 委員会のミッションと事業報告および2020年度事業計画について

会場のスクリーンには各委員会のミッションと事業報告および2020年度事業計画が表示された。総務担当の永田理事より、各委員会は会務分掌に基づき、継続して下記の活動を行っていく旨、説明があった。

- 和文誌編集委員会：日本看護科学会誌の編集・発行
- 英文誌編集委員会：Japan Journal of Nursing Scienceの編集・発行
- 表彰論文選考委員会：表彰論文選考、公開、表彰
- 研究・学術推進委員会：看護学に関する各種研究の推進を支援
- 看護ケア開発・標準化委員会：看護技術を開発標準化するモデルを構築
- 若手研究者活動推進委員会：未来の看護学を創造・想像する土台を構築
- 国際活動推進委員会：看護学の国際活動の推進
- 看護学学術用語検討委員会：看護が扱う専門用語の概念的統一を図る
- 社会貢献委員会：看護学の研究活動を通して人々の健康と福祉に貢献
- 広報委員会：看護学を広く発信し人々の健康と保健・医療・福祉に貢献
- 看護倫理検討委員会：倫理的課題を整理し研究者モラルの向上を図る
- 利益相反委員会：研究の公明性と中立性を確保し社会的責務を果たす
- 研究倫理審査委員会：看護研究の倫理的配慮がなされているか審査する
- 災害看護支援委員会：看護系学会との連携により災害時活動内容を検討
- 総務委員会：会員管理と事務所管理を円滑に行う

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

3. 2020年度予算について

スクリーンに示された収支予算書について、会計担当の石橋理事より説明があった。収支の差異、15,000円にて予算が承認された。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

4. 名誉会員の就任報告

総務担当の永田理事より、新道幸恵氏の名誉会員就任が報告された。合わせて、経歴が紹介された。

5. 第42回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告

2022年開催の第42回学術集会(JANS42)会長として、森山美知子氏(広島大学大学院)が、昨日(11月29日)の社員総会にて承認された旨の報告があった。

出席していた森山氏より、以下の挨拶があった。

「今回の理事長の方向性を引き続き伸ばしていきたい。広島は看護系大学も多く、広島一丸となって盛り上げていきたい。」

V. 審議事項 理事会への意見

議長は質問を促したが、特に質問はなく、議事は終了した。

VI. 表彰

表彰論文選考委員長の亀井理事が表彰者3名を紹介し、受賞者が登壇した。その後、真田理事長より、表彰状と副賞が授与された。対象論文は以下となる。

【優秀賞】

・角田 秋

「Japanese Outreach Model Project for patients who have difficulty maintaining contact with mental health services :Comparison of care between higher - functioning and lower - functioning groups」

Japan Journal of Nursing Science (2018) Volume 15, Issue 2 (pages 181-191)

【奨励賞】

・秋田 由美

「小児がんにより長期入院している学童・思春期の子どもへの気持ちに対する看護師の理解と関わり」日本看護科学会誌 2018年 38巻 p.299-308)

・大城 真理子

「Patients' help - seeking experiences and delaying in breast cancer diagnosis: A qualitative study」

Japan Journal of Nursing Science (2018 Volume 15, Issue1(pages 67-76)

なお、3名の受賞者より受賞の挨拶があった。

VII. 第40回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

第40回学術集会会長萱間真美氏より以下の挨拶と説明があった。

2020年12月12日(土)、13日(日)の両日に、東京都千代田区の東京国際フォーラム(東京駅前)にて第40回日本看護科学学会学術集会を開催する。東京はオリンピック・パラリンピックに向けて準備が進んでおり、会場となる東京国際フォーラムは、ウエイトリフティングの会場となり、オリンピック後はリニューアルされ、最初の学会がJANS40となる予定である。東京国際フォーラム最大の会場であるホールAを2日目に使用する予定で、40周年を記念した理事会企画を予定している。学会参加費のキャッシュレス決済、発表演題の表彰など新しい試みを行う。学会テーマは「看護科学のImplementation」とした。Implementationは実装という意味

である。研究で見出された様々なエビデンスは、現場に実装されることで市民に届けられる。医療の研究では実装が注目されており、大型の研究助成ではこの要素を含むことが採択の条件にもなりつつある。看護の現場は多様であり、現場に定着し実践を変えていくために何が必要かということの検討が、エビデンス自体を洗練するという意味もある。JANS40では、こうしたImplementation Researchについて、米国と我が国における動向を学ぶためのシンポジウム、40周年理事会企画はHolzemer先生をお招きするほか、看護とAI、質的研究方法論に関する講演、そして作家の浅田次郎先生をお迎えした市民公開講座などを企画中である。また、2020年は、ナイチンゲールの生誕200年の記念の年であり、ナイチンゲールは、統計のエビデンスを看護実践に実装した人物でもある。ナイチンゲールは、月ごとの軍の死亡者数に占める感染症の割合をグラフとし、高い死亡率を改善するためには、環境整備が必要であるということを示し、看護実践に実装した。JANS40のポスターは、このエビデンスを示すグラフを背景に置き、聖路加の図書館にあるナイチンゲールのステンドグラスをデザインした。Nursing Nowにも協賛している。多くの皆様のご参加をお願いしたい。

VIII. WANS第6回学術集会会長 挨拶

WANS第6回学術集会会長片田範子氏より以下の挨拶と説明があった。

WANS（世界看護科学学会）は国内外16の看護学系学会が参加し、世界の看護を繋いでいくという役割を担っている。日本看護科学学会が、第6回のHost Organizationである。指名されて片田が関西の大学と協力して作り上げている。ホームページにプログラムの詳細が掲載されつつある。参加登録は1,000人を超え、700件の英文発表が予定されている。

基調講演にAfaf I. Meleis氏を招へいし、「Women and Nursing」をテーマにご講演いただく。また、タイ国のTassana Boontong氏の基調講演も決定した。Tassana Boontong氏はタイの看護の重要な課題についてタイのみならず、近隣のアジア、そして、世界に向けて発信しており、どのようにリーダーシップをとり、ポリティカルに社会の人々に発信していけるのかをお話いただく。WANSのメンバー学会には、自分たちの知識が社会に貢献できる様々な世界に通じる知識にしていくプロセスを、交流を通して楽しめる学会としていきたい。2020年2月28日（金）、29日（土）、中之島の大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）で行う。ぜひ、ご参加をいただきたい。また、これまでのご協力に感謝申し上げたい。

IX. 閉会

司会の須釜副理事長より、最終的な出席者正会員数は委任状を含め合計1,545名となり、学会総会が成立していることが改めて報告された。

以上をもって、第39回日本看護科学学会総会が閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め記名押印する。

2020年 3月8日

議 長 石垣 和子 印

議事録署名人 牛久保美津子 印

議事録署名人 奥 裕美 印

第39回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 優秀論文表彰（優秀賞・奨励賞）

日 時 2019年11月30日（土）17：10～18：10（予定）
場 所 石川県立音楽堂コンサートホール
〒920-0856 石川県金沢市昭和町20-1 TEL：076-232-8111（代）

【議事次第】

- I. 開 会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
 1. 理事長のビジョンと今期の運営方針
 2. 委員会のミッションと2020年度事業計画について
 3. 2020年度予算について
 4. 名誉会員の就任報告
 5. 第42回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告
- V. 審議事項 理事会への意見
- VI. 表彰
- VII. 第40回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶
- VIII. 閉 会